

経済学部教授 黒須 詩子

受賞

- ▶ 2014年度日本昆虫学会学会賞
日本昆虫学会第74回大会
【受賞論文のタイトル】“ The aphid *Ceratovacuna nekoashi* (Hemiptera: Aphididae: Hormaphidinae) and its allied species in Korea, Japan and Taiwan ”



U.Kurosuo

理工学部教授 石川 幹子

受賞

- ▶ 北村賞
日本公園緑地協会
【受賞理由】これまで日本の造園分野の研究、教育、普及やみどりの社会環境整備に大きく貢献してきたことなどが挙げられます。



M.Ishikawa

理工学部教授 大橋 靖雄

受賞

- ▶ 朝日がん大賞
公益財団法人日本対がん協会



Y.Ohashi

科学的な臨床試験の普及によるがん対策推進への貢献

科学的に計画された臨床試験の重要性を早くから訴え、試験の質を支える独立した統計センターの設置とデータマネジメントを実践。我が国を代表する臨床試験組織である日本臨床腫瘍研究グループ (JCOG) のデータセンター設立や日本臨床試験研究会 (現学会) の設立などを主導した。また術後補助化学療法に関する一連の NSAS 研究や胃がんの ACT-GC などの臨床試験を統計専門家として指導したほか、我が国初のがん検診に関する大規模無作為比較試験である J-START など、がん検診研究にも統計・データ管理責任者として貢献している。東京大学に我が国初の生物統計学講座を設立し、生物統計専門家の育成にあたった。欧米の後塵を拝するとされる臨床試験の質向上に長年にわたって尽力されている功績を讃え、朝日がん大賞を贈るものである。(以上、公益財団法人日本対がん協会より引用)

日本対がん協会賞と朝日がん大賞

日本対がん協会賞は、長年にわたり、がん征圧活動に尽力され、功績を挙げられた方々を顕彰するため、1968年に設けた。朝日がん大賞は、日本対がん協会賞の特別賞として朝日新聞社の協力で2001年に創設した。

- ① 将来期待できる予防法や研究を手がけている個人や団体
- ② 検診法や検診機器の分野で画期的な開発をしたり挑戦したりしている個人や団体
- ③ 患者・治療者の活動で実績を残し、今後も活動が期待できる個人や団体——などを対象としている。

理工学部教授 竹内 健

成果

- ▶ カーボンナノチューブを使った半導体メモリ NRAM の高速、低電力、高信頼な基本動作の実証に成功



K.Takeuchi

カーボンナノチューブを用いた半導体メモリ (NRAM) に最適な書き込み方法を提案し、140 ナノメートルサイズの単体の素子の測定を行い、高速、低電力、大容量、高信頼な基本的な動作を世界で初めて実証しました。20 ナノ秒の短い書き込みパルスで、20 マイクロアンペア以下という高速かつ低電力な書き換えが可能です。書き換え時には100倍以上の大きな抵抗の変化が得られ、1つのメモリセルに複数のビットを記憶する、大容量な MLC (多値記憶) 動作の可能性を示しました。また、信頼性に関してはフラッシュメモリの1,000万倍に相当する、1,000億 (10の11乗) 回の書き換えが可能であることを示しました。今後は10ナノメートルまで微細化し、ギガビット以上の統計データを評価することが必要ですが、以上の結果は将来 NRAM が「ユニバーサルメモリ」としてメインメモリ (DRAM) からストレージ (HDD や SSD) まで様々なメモリを置き換え、スマートフォンから企業向けサーバーまで、幅広い IT 機器の高速化、低電力化、高信頼性に貢献する潜在力があることを示しています。

- ▶ 「デジタルデータの1000年記憶を目指して」

インターネットの発達で音楽、映像、文書などのデジタルデータが急増しています。しかし、データを100年、1000年先まで長期保存するメモリ技術は確立されていません。今回、データの長期保存を目指して、フラッシュメモリを記憶媒体とするソリッド・ステート・ドライブ (SSD) のエラーを80%低減する技術を開発しました。1つのメモリセルに3ビット記憶する大容量フラッシュメモリに対して、7個の状態を効率的に使用することで、大容量と高い信頼性を両立しました。また、企業向けサーバーのような、データを頻繁に書き換える応用製品に対しても、適応制御型の信号変調方法を提案し、メモリのエラーを50%削減することに成功しました。以上の技術により、SSD はスマートフォンや PC だけでなく、企業向けサーバー、クラウドデータセンターや100年、1000年といった長期にデータを保存するデジタルアーカイブなど幅広い分野への応用が期待されます。

理工学部教授 梅田 和昇

表彰

- ▶ 平成 25 年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）

日本学術振興会

本表彰は、日本学術振興会が実施している特別研究員事業の審査を行う、専門員のためのものです。審査は第 1～第 3 段階と行われますが、全ての審査の基盤となる書面審査において、有意義な審査意見を付した専門委員が表彰されます。平成 25 年度には、約 900 名の中から 84 名が選ばれました。



K.Umeda

国際会計研究科教授 紺野 剛

受賞

- ▶ 2013 年度「会計大学院協会教育貢献者賞」
会計大学院協会

会計大学院協会のキャリア支援委員長として、会計大学院のキャリア支援に積極的に貢献したこと、また、自身の所属する国際会計研究科（専門職大学院）の発展に貢献したことが評価されました。



T.Konno

研究開発機構教授 辻井 重男

受賞

- ▶ 2014 年度 C&C 賞
公益財団法人 NEC C&C 財団

【受賞理由】情報セキュリティ領域の先駆的研究と産学官コミュニティ構築による分野発展や人材育成に対する主導的貢献。



S.Tsujii

経済学部准教授 丸山 佳久

受賞

- ▶ 平成 26 年度日本簿記学会学会賞
日本簿記学会

【受賞理由】日本の農業における簿記の役割について考察している「農業発展に向けた簿記の役割－農業者のモデル別分析と提言－」（中央経済社）の共著者として、簿記の普及および研究の発展において貢献。



Y.Maruyama

商学部准教授 平澤 哲

受賞

- ▶ 2013 年度日本経営学会賞（論文部門）
日本経営学会第 88 回大会

【受賞論文】「ベンチャー企業の成長と組織アイデンティティの適応的な可塑性」



後楽園キャンパス理工学部長室において、福原紀彦学長(当時)から梅田和昇教授へ表彰の盾が授与されました。

理工学部准教授 新妻 実保子

受賞

- ▶ 『一般社団法人日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門ベストプレゼンテーション表彰』

一般社団法人日本機械学会

【受賞対象】日常環境における動的物体を反映した自律移動ロボットのための環境地図構築



M.Niitsuma

理工学部准教授 山下 誠

成果

- ▶ ホウ素・ホウ素単結合を持つ化合物が、最強の化学結合の一つである炭素・窒素三重結合を穏和な条件で切断することを発見しました。

【共同研究者】

香港科学技術大学化学科大学院生・Lee, Ka-Ho、香港科学技術大学化学科・教授・Lin, Zhenyang、本学理工学研究科博士前期課程 2 年浅川博祈ら



M.Yamashita

理工学部助教 羽深 昭

受賞

- ▶ 博士研究奨励賞（オルガノ賞）最優秀賞
第 17 回日本水環境学会シンポジウム

【発表題目】

重金属分析用蛍光色素の開発と環境試料への適用



学生(院生)の研究成果【受賞】

2014年4月～10月 中央大学公式 Web サイトに掲載された研究・活動成果の紹介

理工学研究科博士前期課程都市環境学専攻2年
(山村寛研究室)

松本 岳さん

▶ 学生賞

日本膜学会第36年会

【研究テーマ】「高油脂生産微細藻類の分離回収プロセスにおける膜ろ過プロセスの優位性」

理工学研究科博士後期課程精密工学専攻3年
(戸井武司研究室)

有光 哲彦さん(現本学助教)

▶ 大学院研究奨励賞

公益社団法人自動車技術会

【研究テーマ】「感性を考慮した活動支援のための機能性を有する音環境創造に関する研究」

理工学研究科博士後期課程精密工学専攻3年
(中村太郎研究室)

戸森 央貴さん

▶ ロボティクスシンポジウム研究奨励賞

第19回ロボティクスシンポジウム

【発表タイトル】空気圧ゴム人工筋肉マニピュレータによる瞬発力のための可変インピーダンス制御

理工学研究科博士前期課程精密工学専攻2年
(米津明生研究室)

丹羽 宙潤さん

▶ 若手優秀講演賞

日本機械学会関東支部第20期講演会

【受賞対象論文】球圧子接触負荷における高強度鋼の水素ぜい化特性

理工学研究科博士前期課程精密工学専攻2年
(米津明生研究室)

草野 涼太さん

▶ 若手優秀講演フェロー賞

日本機械学会関東支部第20期講演会

【受賞対象論文】マイクロインデンテーション法によるステンレス鋼の残留応力推定法

▶ 優秀講演発表賞

2014年度日本材料学会関東支部学生研究交流会

【受賞発表】「高温高圧水環境で生成するサブミクロン酸化皮膜の破壊強度評価」

理工学研究科博士前期課程精密工学専攻1年
(中村太郎研究室)

呉 哲英さん

▶ BEST STUDENT PAPER AWARD

AIM 2014, IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics

2014年先端メカトロニクス技術に関する国際会議

【研究タイトル】Development of traveling wave type omnidirectional wall climbing robot using permanent magnetic adhesion mechanism and proposal of locomotion strategy for the robot

磁気吸着機構を用いた進行波型全方向壁面移動ロボットの開発とその移動手法の提案

理工学研究科博士前期課程精密工学専攻1年
(中村太郎研究室)

島野 諒さん

▶ Best Technical Paper Award

クラフター 2014

【講演タイトル】300[N]の荷重を搬送可能な軸方向繊維強化型人工筋肉を用いた6脚歩行ロボットの開発

理工学研究科博士前期課程精密工学専攻1年
(中村太郎研究室)

金野 将志さん

▶ Industrial Robot Innovation Award 2014

クラフター 2014

【講演タイトル】螺旋式進行波伝播機構による全方向移動ロボットの開発

理工学研究科博士前期課程精密工学専攻1年
(梅田和昇研究室)

尾崎 智哉さん

▶ ベストプレゼンテーション賞

2014年度精密工学会 秋季大会

【発表タイトル】2D/3D レジストレーションにおける Structure from Motion を用いた高精度な初期位置合わせの実現

理工学研究科博士前期課程精密工学専攻1年
(梅田和昇研究室)

磯邊 柚香さん

▶ Best Performance of the Prototype Award
euspen Challenge2014

理工学研究科博士前期課程電気電子情報通信工学専攻1年
(竹内健研究室)

山崎 泉樹さん

▶ 若手研究会優秀ポスター賞

電子情報通信学会 集積回路研究会

【発表タイトル】1Xnm NAND フラッシュメモリの各書き換え回数における最適な非対称符号化手法

※学年は受賞当時のものです。

理工学研究科博士後期課程応用化学専攻3年
(石川洋一研究室)

池田 洋輔さん

▶ 学生講演賞

日本化学会第94春季年会

【受賞研究題目】 Cp * Ir(III) 錯体上における金属中心の遠隔転位

理工学研究科博士前期課程応用化学専攻2年
(船造俊孝研究室)

平島 健吾さん

▶ 学生賞

化学工学会 第46回秋季大会超臨界流体部会

【発表タイトル】 希薄酸を用いたセルロースの解重合における可溶化速度

理工学研究科博士前期課程応用化学専攻2年
(芳賀正明研究室)

永島 匠さん

▶ 学生講演賞

錯体化学会第64回討論会

【受賞講演タイトル】 ヘテロ積層 Ru 二核錯体膜の整流性およびフォトダイオード特性

理工学研究科博士前期課程応用化学専攻1年
(小松晃之研究室)

山田 佳奈さん

▶ ポスターアワード

10th IUPAC International Conference on Novel Materials and their Synthesis (第10回IUPAC新規マテリアル国際会議: NMS-X)

【受賞タイトル】

(Cross-Linked Hemoglobin)-Albumin Cluster as an Artificial O₂-Carrier Kana Yamada, Teruyuki Komatsu*

理工学研究科博士後期課程経営システム工学専攻1年
(鎌倉稔成研究室)

阿部 興さん

▶ 学生研究発表賞

日本計算機統計学会第28回大会

【発表タイトル】 ランダムなエントリー時間を持つ生存関数の推定

商学部 会計学科3年

川嶋 真実さん

▶ 大賞

第38回全国学生書写書道展(席書の部)

予選応募作品5,128点の中より選出

FLP環境プログラム

佐々木 創ゼミ

▶ FLP 環境プログラム佐々木創ゼミの「リユース市」が八王子市と共同で環境省モデル事業に採択

中央大学ファカルティリンケージ・プログラム (FLP) 環境プログラム・佐々木創ゼミが主体となり、卒業生の不用品を新入生の必需品として引き渡す「リユース市」が、環境省より平成26年度使用済製品等のリユースに関するモデル事業に採択されました。

FLPとは、各学部に設置されている授業科目を有機的にリンクさせ、新たな知的関心の領域に対応する教育の「場」を設定するプログラムです。学生がそれぞれの所属学部で主専攻の課程を修めるという基本的な枠組みのもとに、学部の枠を越えて設けられた新たな知的領域を系統的・体系的に学修し、学際的な視点から専門知識の修得と問題解決能力を高めることを目的としています。

昨年度実施した本学のリユース市は、行政(八王子市)と大学が連携した日本初の取り組みです。今回の環境省モデル事業を通じて、取り組みの効果や課題の整理および課題への対応策の検討等を行うことで、今後の使用済製品等のリユースに関する施策等に活かされる予定です。



学生(学部生)の研究成果【受賞・採択】

経済学部 経済情報システム学科3年
(飯島大邦ゼミ所属)

阿久澤 未来さん

▶ 佳作

第55回みずほ学術振興財団懸賞論文

【受賞論文】「日本経済に求められる成長戦略のあり方を考える」